

はいけいであそぼ！

はいけいをえらんで、
カラダのポーズも考えて、
カメラでパシャ！



『推奨学年』 小学生
『時間』 40分～60分
『定員』 5名

主な利用ツール：パソコン、デジタルカメラ、無地シート(カメラで撮る時用の背景)、プリンター

会場条件：特になし

作品の持ち帰り：可(データのお渡し、印刷したもの)

ワークショップの狙い

- ・背景と自分を切り貼りして合成写真を作る。
- ・仮想旅行を楽しむ。
- ・頭の中で想像するだけでなく、ポーズを取るなど身体の動きを導入する事で創造力の幅を広げる。

ワークショップ手順

写真	手順	子ども達への働きかけ	時間
	予め用意した背景を選ぶ。	自分の行ってみたい所や楽しそう所、綺麗な所。 背景を選ぶ。	5分



シートの前でポーズを取って撮影。

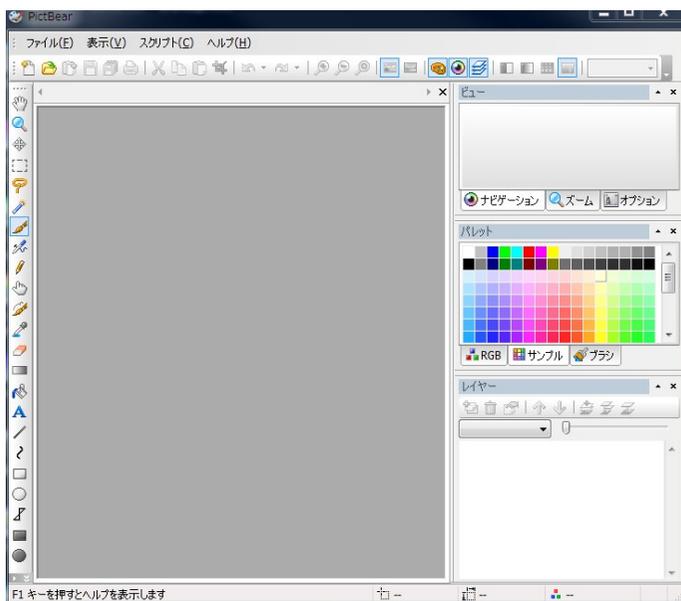
出来るだけ人物の回りは無地に為るように撮る

後で合成する元になるので、ポーズを良く考えさせる。

とにかく楽しませる。

後で困らないように陰を入れなくて撮影する。

5分



お絵かきソフトを開く

ソフトはどれでも良いが今回は『PictBear』と言う無料ソフトを使用

【PictBear】

<http://www.fenrir-inc.com/jp/pictbear/>

【FireAlpaca】Mac ユーザーならこちら

<http://firealpaca.com/>

【ゆめいろのえのぐ】水彩絵の具風

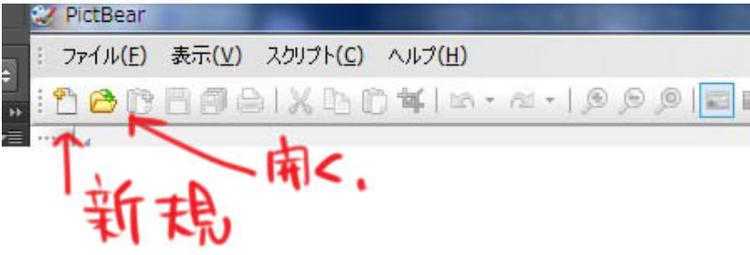
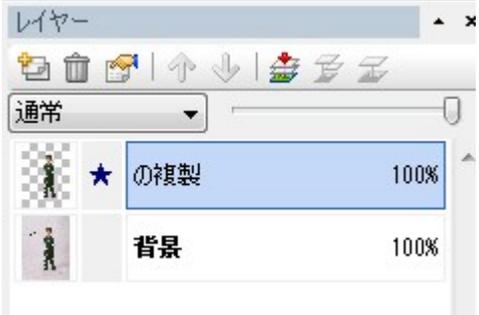
<http://kengolab.net/app/yumeiro/>

写真が撮り終わったら、パソコンで合成する。

マウスやペン型マウスで絵を描くソフトなどと簡単な説明をする。

色々な機能が有るので、分からなくなったら直ぐに手を挙げる。

終了
10分前
まで
PC作業

	<p>『開く』から先程、撮影した写真を開く。</p>	<p>実践形式で行っていきましょう。</p>	
	<p>背景レイヤーのまま作業すると背景透過が出来ないので、 右クリック→レイヤーの複製で同じレイヤーを作ります。</p> <p>複製レイヤーの背景が透過された事が分かります(背景が白とグレーの格子状になっているのが透明と言う事です)</p>	<p>ソフトの説明</p>	
	<p>※レイヤーの説明は下記にあります。</p>	<p>ソフトの説明</p>	

	<p>自動選択ツール(2番目の赤丸)を使って、余分な箇所を消していきます。</p>	<p>ソフトの説明</p>
--	---	---------------



点線で囲まれている部分が選択された場所になります。
【Del】キーで消去します。

ソフトの説明



消去されました。
※分かり易いように青色の背景を下のレイヤーに配置しています。

ソフトの説明

陰や色が少しでも違うとこのように上手く消去出来ません。
何度か繰り返しましょう。
消しゴムを使うのも手です。



『選択』『消去』を繰り返して背景から切り抜きました。

※上手く選択出来ない箇所は消しゴムツールや輪投げツールを使用して消します。

選択したままだと、選択した箇所(点線で囲まれた)でしか作業出来ないの、メニューバーの

『選択範囲』

↓

『選択を解除』

で選択を解除してから作業します。

ソフトの説明

マウスで細かく消すのは根気がいるので、良く見てあげる。

直ぐに投げ出す子は「頑張ろう!」と励まし、逆にとことんまでやる子には「次の時間があるから…」など、やんわりと妥協する事を進める(極力、そういう事は無いようにする)



ソフトの説明

選択範囲の解除はここから

	<p>予め決めておいた背景画像に切り抜いた画像をメニューバーの選択範囲→全て選択。 メニューバーの編集→コピー、貼り付け。</p> <p>左脇のバーから  をクリックし、画像を動かして配置します。</p>	<p>ソフトの説明</p> <p>上手く行くと感嘆がもれると思うので、共鳴してあげる。 褒める。</p>	
<p>無題1.pbx</p> <p>PictBear Standard ファイル(.pbx)</p>	<p>保存します。 デフォルトだと【PictBear】用のファイルになります。</p>	<p>ソフトの説明</p>	
<p>無題1.psd</p> <p>PSD ファイル(.psd)</p>	<p>互換性の高い Photoshop ファイルを選択して保存しましょう。</p>	<p>ソフトの説明</p> <p>可能ならPDFに変更してデータを渡す。</p>	



合成した写真をプリントアウトします。

出来た物を子ども達に渡す。
発表させる。

どのような意図で制作したかを発表させる。

聞いていた子ども達に「〇〇くんはこう言ってるけど、君はどう思う？」など意見を言わせて良い。

最後の
10分間

- ※ ファシリテーターは正解を与えず、子供たちの想像力が発揮できるように促す。
- ※ 子供たちが喧嘩に発展してしまった場合は何故そうなったのか話し合いをさせる。
- ※ 先の答えを与えず、その先が想像出来るように進行する。